

令和6年度 第1回三島市男女共同参画プラン推進会議 報告

1 日 時

令和6年10月31日（木）13：15～14：45

2 場 所

市役所本庁舎3階 第1会議室

3 出席者 … 12人

石田委員、石橋委員、小野委員、関委員、高良委員、土屋(昭)委員、土屋(康)委員、
徳丸委員、永倉委員、成岡委員、西岡委員、日吉委員

4 欠席者 … 4人

大川委員、佐藤委員、松久委員、宮川委員

5 事務局

畠政策企画課長、小嶋副参事、山田主事

6 関係各課

こども未来課 岩崎課長

こども保育課 渡邊課長

福祉総務課 石田課長

7 会議の公開状況及び傍聴者数 … 公開 傍聴者数0人

8 会議の内容 … 別紙のとおり

会議の内容

- 1 開会
- 2 依頼状交付
- 3 開会挨拶
- 4 委員・職員紹介
- 5 議題（進行：西岡座長）
 - (1) 『みしまアクションプラン・パート4』令和5年度事業実績
 - (2) 令和5年度政策企画課所管事業 実績報告と令和6年度事業計画及び進捗状況
 - (3) その他
- 6 閉会

議題1 『みしまアクションプラン・パート4』令和5年度事業実績について

＜事務局から資料に基づき説明＞

議題2 令和5年度政策企画課所管事業実績報告と令和6年度事業計画及び進捗状況について

＜事務局から資料に基づき説明＞

＜質疑・意見等＞

委員：令和6年度の事業について、男女共同参画の推進には複数の課が関わっていると思うが、政策企画課所管事業の進捗状況だけ共有している理由があれば教えていただきたい。

事務局：男女共同参画については複数課が跨っており、全てをご紹介することが難しいため、まずは当課の事業を紹介し、来年度改めて令和6年度の全体の実績を報告させていただきます。

委員：全てを共有するのは難しいと思うが、全体の中で特出している実績や課題等を抽出して共有してもらえれば、委員として意見しやすい。

委員：本年度実施する男女共同参画事業の講演会について、開催日が平日の昼間である理由があれば、参考までに教えて欲しい。

事務局：講師の方のスケジュールもあるが、今回の講演会には企業の男女共同参画担当の方や、中小企業を経営されている方等にもご参加いただきたい意図があり、平日の日中を設定した。性の多様性理解促進事業の講演会については、土曜日に設定している。

委員：オンラインで配信する予定はないか。

事務局：可能であればより多くの方にご聴講いただけるような機会としたかったが、今回の講演会は講師側の条件等もあり、オンライン配信はなしで会場参加のみとなる。

議題3 その他（自由意見）

＜質疑・意見等＞

委員：次期プラン策定に向けて、他の県では既に男女共同参画というプラン名称を撤廃し、ジェンダー平等と言い換えている例があるように、三島市も現在の計画名称に対して違和感を感じている委員も多いと思われるが、いかがか。

事務局：次期計画の策定作業に入れば委員の方々から意見をいただく機会がある。本会議の名称も含め、何か良い名称等あれば是非ご意見いただきたい。

委員：次期計画について、具体的にどのような手順で進めていくのか。また、年に2回の会議で貴重な時間であるため、委員の皆さんにご協力いただけるようであれば、もう少し時間を増やして活発な議論をしたい。

事務局：次期計画については、骨子から練り直していくつもりであるが、委員の方々の意見を集めやすいように、まずは事務局案をたたき台として示すことになるだろう。また、会議の回数は来年度のみ3回に増やす予定。会議時間も区切らずに、可能な限り様々のご意見をいただきたい。会議形式については、例えば来年度はワークショップの様な形式を取り入れる等、各委員の多種多様なご意見をいただきたいと考えている。

委員：次期計画から入れた方がいいと思う視点があればご意見いただきたい。

委員：現プランの用語解説についてLGBTという言葉があるが、国際スタンダードでは既にSOGIという言葉が使われ出している。会議以外の有志の場で構わないため、委員の学びの場や意見交換の場を設けることで、次期計画へのアイデアが浮かぶのではないかと思う。

委員：現プランではデートDVについての言及が少ない。若い段階から啓発していくことが重要だと考える。また、セクシャルリプロダクティブヘルス・ライツやプレコンセプションケアといった国の政策の動向も踏まえて、男女が自分自身の身体と向き合っていく視点も入れていただけると良いのではないかと考える。

委員：DVに関連して、離婚に関する相談の中で、相談者が無意識にモラルハラスメントの被害を受けているケースがとても多い。精神的なDVのひとつとして、モラルハラスメント

という概念も知ってもらう必要がある。また話は変わるが、日常の中で小学校低学年の子供から男らしさ、女らしさについて主張される場面があった。保育園幼稚園の教育の段階から、男女で区別していることが影響しているかもしれない。性の多様性理解促進事業の講演会については、子どもに関わる段階の方にも知ってもらうべき内容であるかもしれないと感じた。

委員：保育士目線からすると、やはり男女で本能的に好む物が異なる傾向があるため、集団保育をする際には、男女で分類する場合がある。保育要領の見直しから必要なのかもしれないと感じた。

委員：学校現場では6年ほど前に中学1年生、2年生でそれぞれ年間2時間、性の多様性の授業の指導案を作った経験がある。実際に授業を行った際に、女子中学生が学生服で登校することを希望するようになり、周囲も奇異な目を向けることはなかった。市の教育委員会に働きかければ、指導要領の見直しも可能であるだろう。

事務局：本日いただいた意見は早速来年度の計画改定に向けて前向きに盛り込んでいきたいので、積極的にご意見をいただければより良い計画になると思う。

委員：国連の会議で日本が4度目の勧告を受けたことで、話題になっている。選択的夫婦別姓については、国会の中で法の整備が必要になるためこの場での議論はできないが、旧姓使用の取組については法務省等が推進している中、現計画には記載されていない。旧姓使用について、既に議論がされているようであれば教えてほしい。

事務局：現状は特に纏めたものはなく、企業側の取組に任せている状態。

委員：国連の女性差別撤廃条約について、委員会からどのような勧告を受けたか、ジェンダー平等という言葉がどのように男女平等参画という言葉になったか、他の地域はどのような取組をしているのか等、皆さんが持っている情報を気軽に共有できる場所を作ってもらえるとありがたい。

事務局：委員の皆さまは色々な分野で活躍されている方も多くご参加いただいているため、勉強会や情報共有の場について、前向きに検討していきたいと考えている。

委員：成果指標や実績報告について、重要度や緊急度を明確に示して、重要度が高い内容は、課を超えて連携するような体制を整えられると良いと思う。また、講座についても、特定の参加者しかメリットを受けられるものではなく、自治体として期待されるような仕組みづくりや場所づくりを優先的に実施してほしい。

事務局：次期計画では、重要度や緊急度、また課を超えた取組についても視覚的に分かるような

工夫ができれば実施したいと考える。また、講演会についても委員の皆さまからご提案やご意見をいただくと非常にありがたい。

委員：現計画の進捗管理について、PDCAで回す仕組みが続いているからこそ達成率が低いように思う。次期計画からはアクションからスタートしていただきたい。

<閉会>